

マンウォッチング

人間の行動学

デズモンド・モリス著 / 藤田 統訳



DESMOND MORRIS
MANWATCHING

凝視行動

じっと見る目、ちらりと見る目

人が出会い、目が合うと、2人は自分たちが葛藤^{かつどう}状態に陥ったことに気づく。2人はお互いに視線を合わせたいと思うが、同時に目をそらせたいとも思う。そのために、目はあちこちに一連の複雑な動きをしてしまうので、この〈凝視行動〉を注意深く研究すれば、2人の関係についてきわめて多くのことがわかる。

人間の“一瞥（ちらり目）”に関する法則が、非常に複雑であるわけを理解するためには、次のことを十分知っておく必要がある。すなわち、われわれがだれかを見たいと思うには一つではなくいくつかの理由があること、さらに、だれかから目をそらせたいと思うにもいくつか別の理由がある、ということである。初めて、お互いに強くひかれるものを感じた若い恋人たちの場合には、いくつかの非常に際だった凝視の型が見られる。もし、彼も彼女も大変恥ずかしがり屋ならば、お互いに目をそらしている時間は、とても長い。話をする時にも、彼らはほんの一瞬しか目と目を合わせないし、ほとんど下ばかり見つめているか、お互いに反対のほうを見ているかである。時には、あまり熱心に地面を凝視するので、はたから見ると、そこに何か素敵なものが落ちていないに違いない、とさえ思

友好的な対面では、お互いに相手が魅力的だと思ふと、目を合わせている時間がふつうよりわずかだが長くなる。通常、この凝視時間は無意識のうちに延びるのだが、そのメッセージもやはり無意識に受け取られる。2人とも、その対面が快いと感じるが、その信号については気づかない。



若い恋人たちの〈凝視行動〉は、いくつかのはっきりとした段階をたどる。初めは、恥じらいのため視線をそらしていることが多く、お互いに目を合わせることに抵抗がある。次に、顔はあらぬほうを向きながら、目だけが相手をちらりと見る横目づかいの段階に移る。時には、この写真に見られるようにわざとこの仕草を使って、相手の気をひくこともある。